

＝ 第 29 号 ＝

発行日:2011年11月1日

編集:立命館大学応化会事務局

編集責任者:金川 義孝

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学生命科学部・

薬学部事務室内

TEL. 077-561-2658

FAX. 077-561-2659

e-mail:oukakai@st.ritsumei.ac.jp

立命館大学 応化会ニュース

生命科学部同窓会への合流

会長 北尾 舒彦

(昭和三十九年卒)



は、現在、災害復興支援の活動ができる状況にはありませんので、応化会会員の皆様には、立命館大校友会が復興支援事業の一つとして、実施している義援金の募集に、ご協力をお願いしたいと思っております。

高い気温と節電のため、非常に厳しかった夏も過ぎ、ようやくさわやかな季節となりました。応化会会員の皆様方には、各分野において益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃は応化会の運営につきまして、格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、皆様ご存知の通り、近いうちに、生命科学部の同窓会が設立されることになっていきます。それに伴ない、応化会は来年三月末をもって解散し、新同窓会へ合流することになっております。七月から応化会の幹事会のメンバーは全員新同窓会設立準備世話人会に加わり、設立総会の準備作業を進めております。

また、三月十一日の東日本大震災で被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。応化会として

生命科学部の第一回卒業生は来

年三月であり、薬学部の第一回卒業生は三年後の平成二十六年三月となりますので、新同窓会の実質的な運営は、当面現応化会のメンバーが中心になるものと思われます。

今年度(平成二十三年四月から平成二十四年三月まで)だけはイレギュラーではありますが、応化会と新同窓会は、それぞれに事業計画を作成し、予算を執行することになります。

「応化会」という名称について、創立二十周年記念誌の年表を見ますと、平成六年四月のBKC移転と同時に、それまで化学科の中にあつた生物化学教室が新たに学科として独立する形で、生物工学科が設置されました。

それ故、平成七年六月の第五回応化会総会において、それまでの「化学科同窓会」から、「応化会」へ名称変更されました。従って、応化会時代は、平成七年から十六年間継続したことになります。

この間、平成十年一月には、理工学部六十周年記念校友大会がありました。

また、平成十五年六月には、同窓会創立二十周年を迎え、同窓会

創立以来の歴史などをまとめた記念誌を発行しました。

更に「会員相互の親睦を図る」という応化会の目的を少しでも実現するため、種々の活動を実施しました。関東支部、東海支部および中国・四国支部の三支部が設置され、本部では、同好会として、ゴルフ・ハイキング・釣り・温泉研究会が活動しています。

また、近年は年一回健康セミナーを開催しています。

応化会は一万人近い会員数ではありますが、会員が日本全国に分散していることと年令幅が広いことなどから、応化会主催の行事への参加者が少なく、特に若年層の参加者を増加させることが、大きな課題であります。

これらの課題を解決するために、今回の新同窓会への合流を機に、過去の活動のあり方を反省し、良い所は残しつつ、自由な発想で、新しい展開が出来れば良いと考えます。

最後に、応化会会員の皆様のご健康と益々のご発展をお祈り申し上げます。

応化会の思い出

会長時代の楽しい思い出

田村 弘三郎 (昭和三十一年卒)

はじめに、過日、金川編集委員長から「最後の応化会ニュース」と原稿の依頼があり、思うに二十二年前、松田先生からのご依頼を受け、わが身を省みず、吉田 巖会長の後を引き受け、十五年（五期）の間、あつかましくも会長を務めさせて頂きました。この間、諸先生をはじめとし多くの歴代役員や校友の皆様を支えられ、また素晴らしい学園の躍進に裏打ちされた催しにも加わり、恵まれた環境の中で応化会事業に参画させて頂き感謝の気持ちで一杯です。関係者の皆様様に紙面をお借りして衷心よりお礼を申し上げます。就任以来、立场上、事業の成果も然ることながら、常に心することは継続的に安定した財源の確保であった。その財源である年度会費は手間隙を掛け、工夫もし、徴収に務めたが、年毎に財源は減る傾向にあった。このため、唯一交流・懇親の事業として竹内先生には難しい講師の選定等並々ならぬご尽力を頂きながらも費用面での負担も重くなり、楽しかった科学技術セミナーは西島安則先生のご講演「日本の科学技術の現状と展開」を最後に十二回で発展的に終えることになり誠に残念であった。

嬉しいことに、母校理工学部が時代を先取りして衣笠学舎からくさつキャンパスに学舎を移し、新学部の開設など規模の拡大と教育・研究機構の充実により、多くの優秀な卒業生を世に送り出した。この時期を起点に、新しく卒業する全学生を対象に終身会費制が導入されることになり、今まで苦勞をした財源の課題が解消した。

これを機に、京都を中心にした交流の場を全国に広げることを決め、卒業生の多い関東地区、次いで東海地区に拠点を設け地域での交流を促進させた。引き続き発展的に中止した科学技術セミナーに替わり、共通の趣味をベースにしたゴルフ・クラブ、ハイキング、そして釣り・クラブを誕生させ会員相互の交流を促進させた。現在、私もゴルフ・クラブ、ハイキングに参加し交流を通して余生を楽しんでいる。

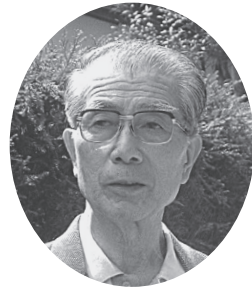
任期中、最も楽しい思い出は、記念すべき創立二十周年記念事業を推進する機会に恵まれ、諸先生をはじめとし、多くの校友の皆様と久しく二十周年をお祝いし喜びを共にし、皆様のご協力を得て記念誌（創立二十年の歩み）の発行に関わって来たことであった。終わりに、歴史のある応化会の母体を引継ぎ、新たな同窓会組織の誕生を祈念しております。



第15回応化会ハイキング (京都・大文字山)

応化会一番の果報者

岸 要 (昭和二十七年卒)



新制大学 第一期、昭和二十七年（一九五二）二部卒です。応化会幹事会の活動を通じて

永年親交を賜った、初代会長吉田巖様、岩橋清様、富田耕一様、宇野光造様、目片昭芳様たち、同世代の方々は既に先立たれました。気付いて見れば私は常任幹事のおつぱんに！今にも転げ落ちそうに佇んでおります。一九九七年三月から二〇〇四年六月までの七年間、毎週一〜二回応化会事務局の支援に通いました。動機は九五年発行の会員名簿第4号に間違いが多く見付かり、特に吉田巖初代会長の住所も誤っていたために、幹事会で厳しい批判の音が挙がり対策が急務となりました。当時、田村弘三郎会長からご相談を受けて事務局の支援をお引き受けしました。この時から名簿管理委員長も務めて、世紀二〇〇〇年発行の会員名簿第5号と二〇〇三年発行（冊子名簿の最終号）の第6号と、応化会歴史上記念に値する名簿発行に携わる幸運に恵まれました。特に第5号は名簿管理に新しくパソコンを導入し、また郵便番号施行の時期と重なり大変な苦勞もありました。

名簿発行作業を進める中で、業務の正確を期するためには、事務局全般の適切な文書保管、作業の標準化の必要性を痛感し、事務局の実情を精査して、応化会事務処理マニュアルを作成しました。このマニュアルは少なくとも、二〇〇四年の事務局担当者の交替、武藤寿美子さんから小西昌子さんへの事務引き継ぎには大いに役立ちました。新しい同窓会組織にも何らかの形で引き続き活用されることを願っています。

毎週一〜二回とは言え、七年間は長い期間でした。苦勞も多くなりましたが、事務局の支援活動を通して応化会会長を始め多くの先生方や幹事会役員の方々に知遇を賜り、厚いご教導を戴けたことは晩年の私にとりまして何よりの宝物と心から感謝しております。

~~~~~

## 化学科同窓会発足までのあれこれ

松田 十四夫 (昭和三十八年卒)



一九八〇年（昭和五十五年）頃だったと思います。化学科内の当時の状況は、一九四九年（昭和二十四年）に新制大学としてスタートして以来、学科の運営に多大な役割をされてきた先生方が定年退職を迎える時期でした。横山一英先生、渡辺 明先生が、さらに

数年後には杉田嘉一郎先生、鈴木啓三先生も定年退職を迎えることになる状況でした。一九八〇年当時の理工学部は、数学物理学科、電気工学科、機械工学科、土木工学科に化学科を加えた五学科編成でした。その五学科の中で、学科単位の同窓会組織がなかったのが化学科と数学物理学科でした。化学科は専門学校当時から数えて約三十年の歴史を刻みながら、研究室単位の同窓会組織は若干ありましたが、学科単位の同窓会組織がありませんでした。

そのような当時の状況から、何とか今の時期に化学科全体の同窓会を作りたいと考えるようになりました。このような思いを、当時の教員仲間である岩崎弘通さん、岡本勇三さんなどに話し、同じような主旨を杉田嘉一郎先生、鈴木啓三先生にもお話し賛同を頂きました。その後、学科の教員会議である「教室会」に同窓会結成に向けた活動を開始したい旨の提案がされ、承認を頂き、学科教員全員のサポート体制ができました。これを受けて学科内に準備会を作り、その活動が本格的に開始されたのは、一九八一年（昭和五十六年）夏頃からで、二つの大きな方針が確認されました。その一つ目は、「化学科卒業生懇親会」を開催し、そこで「化学科同窓会」の結成の賛



化学科同窓会発会式懇親会  
(左)本島健次先生 (右)吉田巖初代会長

同を得る。その二つ目は「卒業生名簿」作成の経費に併せて「懇親会」開催に関わる経費などを集めるために「賛助金」の募集が必要であることでした。種々の情報を集めながら準備会を開催し、一九八一年十一月頃に、「化学科卒業生懇親会」の開催要項、「賛助金」の募集要項などの大綱ができ上がりました。当時は、現在のようなワープロ、名簿のタックシールなどがなく、資料の作成は全て手書き、発送用の宛名書きも手書きで行う状況でした。さらに、ある研究室の同窓会役員から呼び出され、学科全体の同窓会組織は不必要だと説教されることもありました。一九八二年（昭和五十七年）に入り、専門学校当時から卒業生で住所が判明している約三九〇〇名の卒業生に「化学科卒業生懇親会」の案内、「賛助金」の募集案内の文書を発送しました。同年三月十四日に衣笠学舎で「化学科卒業生懇親会」が開催され、約三百名の卒業生などが参加してくれました。当時の天野総長にも参加頂き大変な盛況の中で、「化学科同窓会」の結成への賛同が得られ大いに勇気を貰いました。また、賛助金も約二百万円の協力を頂くことができ、今後の展開に元気ができました。その後、「立命館大学化学科同窓会準備会」を発足させ、世話人代表として杉田嘉一郎先生にお願ひし、卒業生からは約三年毎に一名の世話人を委嘱して約六十五名からなる「準備会」を結成し、同窓会結成への活動を始め、会則作成、名簿作成などの小委員会も活動し始めました。

紙面の都合で、この間の詳細は書けませんが、一九八三年（昭和五十八年）六月十二日に衣笠学舎で「化学科同窓会発会式」を行い、約二百三十名の卒業生の参加を得て、初代会長に吉田 巖氏（専門昭和二十五年、大学昭和二十七年卒）を選出し、無事念願の同窓会を誕生させることができました。同時に「化学科同窓会会員名簿」の発行も行いました。「発会式」では、元教員で日本原子力研究所に転職し、当時は日立製作所エネルギー研究所に所属していた本島健次先生に「私と立命館大学」と題して記念講演をして頂きました。同窓会に関係して約三十年が経過しましたが、この間の活動に多くの卒業生のご支援、ご協力を頂きましたことに深く感謝申し上げます。終わりにさせていただきます。

## 応化会ニュースの思い出

香山 彰朗（昭和三十一年卒）



応化会の解散と新同窓会への合流に伴い、現在の「応化会ニュース」が二十九号で最終号となるにつれての所感として、ここにニュースの思い出を綴ってみました。思い起せば私が応化会ニュースに関わったのは前身の「化学科同窓会ニュース」第八号（平成二年発行）から「応化会ニュース」第二十一号（平成十五年発行）までの足掛け十四年間、編集責任者として担当させて頂きました。そもそも当ニュースは「化学科同窓会ニュース」として昭和五十八年十一月に第一号として創刊されたもので、第十三号より「応化会ニュース」に名称変更され現在に至っております。またその間、用紙の大きさも、一〇二号はB4、三〇五号はB5、十六号以降はA4と変遷を遂げております。「応化会ニュース」（以下ニュースと略す）の記事は定型として定年退職される先生に関する記事、新任の先生の紹介記事、同窓会活動の報告記事などは御担当より投稿いただくので、特に記事の依頼に問題はありませんが、会員の方へ投稿を依頼するに苦勞したのも思い出のひとつです。投稿者のご協力を得て、素晴らしい記事をお寄せ頂き、ニュースの内容が充実した時は編集委員として冥利に尽きるものです。既に過ぎ去った過去のことではありますが、ニュースの担当として何とか責務を終えられたことは、編集委員のメンバーや会員各位の御協力のお蔭であり、この紙上をお借りしてお礼を申し上げます。同窓会も新しい組織になりますが、同窓会ニュースも形を変えてスタートすることでしょう。新しい編集委員のご活躍により、益々のご発展をお祈り致します。

## ゴルフ懇親会・

### 徒行会ハイキングの回想

元副会長・元企画運営委員長

東 正弘（昭和四十一年卒）



元副会長・元企画運営委員長  
東 正弘（昭和四十一年卒）  
会が発足して以来、総会以外で会員が交流する機会が少なく、会員の交流をもつと進められないかと、一九九八年六月の総会で参加者に趣味のアンケートを実施したところ、ゴルフ・山歩きの回答が多く集まりました。同年八月に第一回ゴルフ懇親会を七名参加者でスタート、以後、春・秋の年二回継続して開催し、第二十六回を数えました。山歩きは、第一回徒行会として一九九九年六月に比良山に登り、以後、春・秋の二回実施しています。現在は名称を応化会ハイキングに変更して続いています。ゴルフ懇親会の参加者は第四回目から十名以上となり、四々五組でダブルペリア方式にて腕を競って楽しんでいきます。約五十名の方に一度以上参加頂き、参加回数が多い方は二十二回です。ハイキングは、当初の山登りから、少し軽い行程にしてどなたにも参加して頂けるコースで

実施しています。参加者の年代は、昭和三十年代卒〜五十年代卒まで幅広く参加して頂き、世代間の交流が活発に行われています。ゴルフ・ハイキングには女性の参加もあります。ゴルフ・ハイキングの参加者の多くは三年に一回の総会にも参加されていますので、発足時目標とした応化会会員の親睦が進められました。我が国は高齢化社会となり、定年後のあり余る余暇の使い方が人生を左右します。楽しい豊かな人生を送るためにも体力と人との交流が大事です。そのためには体力作りをして仕事関係以外の方との交流も大切な問題です。人との交流の方法はいろいろありますが、同窓会を通じての交流も一つの選択肢にされては如何でしょうか。同窓会を通じた交流は異業種交流も出来、話題も豊富になり仕事の面でも人脈でもプラスになると思います。ぜひ若い世代の方のご参加を待ちます。現在、ゴルフは昭和三十七年卒 三上正勝様と昭和四十一年卒 西村定様にお世話を、ハイキングは昭和四十年卒 川口士郎様にリーダーをして頂いており、ご尽力に厚く御礼申し上げます。新同窓会への移行後も継続して続くことを願い、益々の発展を祈っています。

## 立命館への期待と評価

関東支部長

仲宗根 宗督（昭和三十五年卒）



(一) 立命館大学は「知の玉手箱」である

も進化し続けている現況を鑑みると、生命科学分野に特化し進化する現状に改めて協賛し期待している次第です。そして生命科学部卒の新しい組織体が誕生することを歓迎し、応化会との共存共栄と伝統と歴史が引継がれていくことも「可」として賛同の意を表します。

(二) 東京の「日本獣医畜産大学」も  
大学名変更!!

東大、京大

東京都三鷹市のJR中央線沿線の同大学も数年前から「日本獣医生命科学大学」に変更され、学生もレベルアップしているとの評価に、わが立命館の生命科学部・薬学部にも

「知の玉手箱」である。私が所属している日本社会情報学会の総会パーティーで、東工大の教授が（私語ながら）表現された内容であった。知の玉手箱とは「持つ喜び」「開ける喜び」そして「使う喜び」を内容とした改革路線を積極的に推進している大学であるとの評価であった。これが外部評価の一端である。とするならば、我々立命人は誇りを持って「知の玉手箱」を共有しようではありませんか・・・

専攻に左右されることがなく幅広く職業選択の自由を発揮している後輩を改めて評価しております。今後、生命科学部や薬学部出身者が別の分野でも活躍される元気な「立命人」の出現も期待しております。

(二) 生命科学部卒の同窓生に期待

(五) 生命科学部卒業生が東京でも応化会に参加してもらい、若き血潮を発揮して後継の一翼を担っていただきたく希望して、東京から一文を提供し挨拶とさせていただきます。「健康」のルーツは「健心康体」であると言われます。心身のバランスを維持して共存共栄で頑張りましょう。

私は理工学部で化学科を卒業して松下電器本社に入社して三十六年間勤務し、定年も松下電器の名称で業務終了しましたが、一年後パナソニック(株)と社名が変更され、ナショナルブランドもパナソニックに統一され併せて三洋電機や松下電工と合併した企業連合が実現しております。企業も大学



# 「健康食品の上手な使い方」

森下仁丹株式会社顧問 河原 有三

何時までも健康でありたいと願うのは、万人の望むところです。古くは秦の始皇帝が不老長寿の薬を求め続けたのは有名な話ですし、近世では貝原益軒が養生法を説いています。これらの解説の中には現代生活にでも参考になるようなノウハウも沢山含まれています。漢方医学の世界では病気になる前に養生したり、手当てをしたりして、病気になるにたい様に対処する事を「未病を治（ち）す」と称して早い対応が大切である事を説いています。人の体質は百人百様で画一的なものではありません。医薬品の場合の適応は小児と成人の分類で投薬され最近では老人医学も進化してあります。更に性差に基づく対処法がありますが、体質よりも発現している症状への対応が通常優先されます。

ながら、対応策を習得しておくのも快適に過ごす為に大切なことです。このような場合に古くからある漢方医療、アーユルベータといった古典医学の対処法は大変参考になります。古典ではありませんが医学ですので、医師（中醫師を含む）による診断が伴う必要があります。それでは、これらの情報の中から自分で応用できることについて考えてみたいと思います。例えば、老化について考えますと、老化は病気ではありませんが随伴症状が出てきます。

## 一、生体組織の変化としては、

- ① 真皮が薄く、弱くなる↓乾燥肌になり易く、かゆみを伴います。
- ② 肌の張りがなくなる↓組織の構成成分の産生が不十分になります。
- ③ 骨量が減少する↓骨折の危険性が高まります。
- ④ 軟骨が磨り減る↓関節の痛みが発生します。
- ⑤ 動脈が硬化する↓心筋梗塞や脳梗塞の原因となります。

※③④⑤については進行すると治療の範疇になりますので早い目の対処が必要です。

## 二、消化器内分泌機能が低下します。

- ① 消化管蠕動運動の低下↓食の摂取量が低下し栄養状態が悪くなったりします。
- ② 腺分泌の低下↓性ホルモンの減少による体調の変化などホルモンの減少による症状の発現等が見られます。又、唾液や胃液など消化液も減少して消化力が低下します。
- ③ 腸内善玉菌の減少↓悪玉菌が優勢になり腸内環境が悪くなります。そうすると、以下のような状態を引き起こす原因になります。

- i) 下痢、便秘の様な排泄異常
- ii) 栄養素の吸収低下
- iii) 免疫系の低下等

## 三、これらの現象を少しでも改善するために自分で安全に手軽にできる事は？

一番に！  
「元気の秘訣は有用菌と一緒に上手に生活をする事」が挙げられます。人の体には、お腹の中には勿論の事、口にも、皮膚にも菌が存在しています。よく知られている乳酸菌は自然界にも、特に醗酵食品の中にも色々なタイプの乳酸菌がいます。腸に住む乳酸菌は食事や疲労や不規則な生活から来るストレスにより減少してしまいます。

対策として！  
手軽に出来る事として、ヨーグルトなどの醗酵食品や乳酸菌の一

種であるビフィズス菌をサプリメント（栄養補助食品）で補う方法があります。飲んで見ると実感できる事が色々あります。同様に日頃の食事では不足しがちな成分をサプリメントとして補っておく事により、不調な状態になりにくくすることも期待できます。

## 他には！

食事に気をつけている方でも、ビタミンやミネラルを充足しておくことは中々難しいことです。脂溶性のビタミン以外は過剰になる恐れも少ないので、日頃から摂取しておきたいものです。このような栄養素は薬と違って疾病を治す為のものではありませんので、欠乏にならない様に日頃から備えておきたいものです。

## 四、健康食品の選び方

### 制度について！

健康食品といわれるものの中には特に法制度で規定されたものと規定のないものがあります。特定のビタミンとミネラルの機能を説明した「栄養機能食品」や、また歴史が浅いのですが、疾病の境界域にある状態の改善を目的とした「特定保健用食品」があります。安心の管理状況としては栄養機能食品の場合は保健所への届けがされています。特定保健用食品は臨床試験を必要として消費者庁での審査があり、一応安心できます。それ以外のもので対しては食品衛生法に

よる規制位で専用の監視制度はありません。その為、利用になる方が、ご自身で正しい情報の基に商品を選択していただく必要があります。選ぶ為の基準は！  
栄養士や薬剤師でサプリメントアドバイザーの認定を受けたスタッフが常駐している会社の商品であること。出来ればGMPという品質管理基準の基に製造されている物であること。新規な素材を配合している商品であれば、安全性、有効性の試験が済んでいること。

## 五、使用上の注意に付いて

### 服用後に倦怠感を感じる。

湿疹が出た。下痢をする。

などの症状が出た場合は直ちに使用を中止してください。又、健康食品と薬に飲み合わせがあるものがあります。薬を分解してくれる酵素を増強又は減弱することにより副作用が起こることがあります。高血圧、糖尿病等は更に作用を重複する場合もありますので確認の上のご利用をお勧めします。

## 六、終わりに

健康食品企業の開発に携わってきた立場としては制度の整備が早く進み、利用していただけるお客様が正確な情報を商品の表示から簡単に理解出来る環境を一日も早く作り上げたいと願っております。

（本稿は、さる二月二十日に行われた応化会第5回健康セミナーの内容の一部です。）

## 会員だより

### 「釣り天狗クラブついに発足！ 釣りがつなく縁!!」

目片 秀明 (平成四年卒)

応化会の皆様、応化会に釣りの同好会が発足したことをご存知ですか。

二〇〇七年に若い方々がもつと積極的に応化会に参加し、さらに応化会を盛り上げていくために「応化会に釣りの同好会を立ち上げたい」という提案があり、そしてその機運が高まり、ついに、二〇〇九年四月十二日に釣り天狗クラブが発足しました。

第一回の釣り企画は、「大阪府高槻市の芥川マス釣り場でのニジマス釣り」を開催しました。参加者は十名で、全員が十四くらい



いずつニジマスを釣り上げ、ある方は三十cmを超えるものを釣り上げていました。釣った魚をその場でさばき、バーベキューで食べ、大いに盛り上がりました。

第二回は、

二〇一〇年九月十二日の「大阪府泉南郡の田尻海洋交流センター(海上釣り堀)での鯛釣り」を開催しました。参加者は八名、朝十時から一時間三十分かけて鯛を狙って釣りしましたが、その日は潮が悪く、水温が

高いこともあり、八名で鯛が一匹釣れただけでした。(でも全員に一匹ずつ鯛のお土産をもらいました。)今回の釣りを通して、海上釣り堀といっても、やはり釣りは自然が相手なので、思い通りにいかないという釣りの難しさ、奥深さを痛感させられました。その後、釣った鯛、サザエ、帆立貝などをバーベキューで食べながら、ビールが進み、会話も弾みました。

その時、普段の生活ではなかなか話をする機会のない人生の先輩や後輩とゆっくり話をするのができま



こには新たな出会い、つながる縁がありました。この様なイベントに参加することにより大いに親睦を深めることは、色々な意味で人生にプラスになり大変良い事と思います。これから釣り天狗クラブが、「様々な方々との縁がつながる会」に成長できるように楽しい釣り企画を作っていきたいと思っております。

第三回の釣り企画、「大阪府泉南沖での太刀魚の船釣り」を二〇一二年十一月十九日(土)に開催する予定です。

さて、今度はどんなすてきなご縁がつながるのでしよう!!  
皆様のご参加をお待ちしています。

## 会員だより

### 『第一回温泉研究会』に 参加して想うこと!

石井 猛 (昭和三十一年卒)

この『温泉研究会』の発足のきっかけは、以前の応化会ニュースで、『温泉湯けむり談笑クラブ(仮称)・第一回未定』を拝見し、早速、木村碩志前会長に相談し、応化会の交流の場として『温泉研究会』を提案したことです。折り返し、応化会事務局の先生から『岡山の温泉・世界の温泉』を出版して』の原稿を依頼され、現在の御縁となり、光栄に存じております。

以上のような経過から、目出度く『第一回立命館大学応化会温泉研究会』を発足する事になり、大変嬉しく思いました。発足場所を、木村碩志前会長と相談し色々考慮しました。歴史のある有名な温泉として挙げられる、愛媛県の道後温泉、和歌山県の白浜温泉そして兵庫県の有馬温泉を候補に上げましたが、京阪神に近く、多くの方々に参加して頂けると思われる、兵庫県の有馬温泉を選択しました。

そして『温泉研究会創立総会』を以下のような内容で『応化会ニュース』に掲載して頂きました。

日時 平成二十二年十一月二十四日(木)

十六時

場所 有馬温泉 かんぼの宿 有馬

講演 『岡山の温泉並びに世界の温泉』

石井 猛

参加して頂いたのは六名でしたが、時間通り早速に総会を開きました。引き続き、それぞれの役職を、参加して頂いた全員(欠席者も含めて)の方々に引き受けて頂きました。

続いて、温泉研究会初代会長 木村碩志氏のご紹介により、今日の記念に、『岡山の温泉・世界の温泉』を、楽しく、面白く講演する予定でしたが、出席者の自己紹介を聞きながら、温泉研究会の必要性についての話題提供で盛り上がり、時間の都合上肝心の講演の核心まで進まず、残念ながら次回に回す事にしました。そして『懇親会』に入り、乾杯を交わし、楽しく宴会に突入して、朝迄、歓談致しました。

皆様も『健康で長生きできるこの研究会』に是非御参加されることを御願ひ申し上げます。



## 新任の先生から一言

よしがい えみ  
吉開 会美 先生



本年四月より生命科学部生命医科学科に助教として着任させて頂きました。専門分野は細胞生物学、発生生物学です。一つの細胞が産み出す多種多様な生物の形に魅せられ、初期胚発生に関する研究を行ってきました。今後は現在の培養細胞を用いた遺伝子発現解析を形づくりの研究に発展させたいと考えています。皆様のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

### 略歴

二〇〇九年三月 九州大学大学院生物資源環境科学府遺伝子資源工学専攻博士課程修了、博士（農学）。  
二〇〇九年四月 立命館大学グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）ポスドクトラルフェロー。  
二〇一一年四月 立命館大学生命科学部生命医科学科 助教。

さなだ ともえ  
眞田 智衛 先生



本年四月より、生命科学部応用化学科・助教として着任致しました。無機化学を主とした、光機能性材料を中心に研究を進めております。自分がこれまで「先生」とお呼びしていた方々と同じ仕事をすることになり、光栄に思うと共に、やはり不安も少なからず覚えております。私自身が「先生」と呼ばれるに相応しい人間だと、自他共に認められるよう、改めて頑張る所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 略歴

二〇〇七年三月 立命館大学大学院理工学研究科総合理工学専攻博士課程後期課程修了、博士（工学）。  
二〇〇七年四月～二〇〇九年三月 立命館大学理工学部（のち生命科学部）応用化学系助手。  
二〇〇九年四月～二〇一一年三月 立命館大学総合理工学研究機構ポスドク研究員。

つちや ともふさ  
土屋 友房 先生



本年4月に薬学部教授として赴任致しました。専門は微生物学・感染症学分野です。特に多剤耐性菌問題の克服を主要テーマとしています。長年薬学分野で教育・研究に携わってきましたので、その経験を立命館大学薬学部で生かしたいと思っております。いろいろお世話になると存じますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 略歴

一九六八年 東京大学薬学部卒業  
薬剤師免許取得。  
一九七三年 東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了（薬学博士）  
同教務職員、同助手、メリーランド大学医学部博士研究員、ハーバード大学医学部博士研究員、岡山大学薬学部助教、同教授、同学部長、岡山大学アドミッシンセンター長などを経て、二〇一一年四月本学に着任。

やまだ よういち  
山田 陽一 先生



本年四月より、薬学部助教として着任致しました。専門分野は細菌の薬剤耐性です。今後は、今までの研究を進展させて、臨床応用を視野に入れた研究を行いたいと考えています。また、今までのアメリカ留学の経験などを立命館大学の教育に役立てたいと考えています。皆様のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

### 略歴

二〇〇一年 岡山大学薬学部卒業  
薬剤師免許取得。  
二〇〇三年 岡山大学大学院博士課程前期修了。  
二〇〇六年 同博士後期課程修了、薬学博士号取得。  
二〇〇六年 岡山大学大学院 博士研究員。  
二〇〇七年 オクラホマ大学（米国）博士研究員。  
二〇一一年 本学着任。

# 企画運営委員会報告

委員長 伴 野 清

(昭和四十二年卒)

日頃は皆様方の交流と親睦を図るための各種企画運営にご協力をいただき有難うございます。

さて、今年度も幹事の方々に世話いただき、「ゴルフ・懇親会」、「ハイキング」および「温泉研究会」の活動が繰り広げられましたので、以下に紹介させていただきます。なお、「釣り天狗クラブ」は、次回開催についてお知らせします。

それぞれの開催案内は、以前のアンケート調査をもとにお送りしておりますが、参加ご希望の方は、ぜひ事務局までご一報下さい。皆様方の一層のご参加を心からお待ちしております。

## 第五回健康セミナーの開催

平成二十三年二月二十日(日)  
京都タワーホテルにおいて「健康食品の上手な使い方について」と題し、森下仁丹(株)・研究開発顧問の河原有三先生にご講演いただきました。

近年、健康食品と呼ばれているサプリメント類は、毎日のごく新聞やテレビ等で広告、宣伝がなされ、ある団体の使用実績調査では四十歳以上の六十%が利用しているとの報告がなされています。しかし、これら商品の中には、法的に規定された「特定保健用食品」や「栄養機能性食品」以外に、法的な規定が明らかでない、所謂「健康食品」がより大きな市場を形成しています。しかし、「健康食品」の中には、その機能や品質に疑問をもつ声も多く、法的規制の強化を求める動きが活発化しているとの事でした。

河原先生は、現在、「健康食品」に関する機能や品質に関する規制が必須であるとの立場で、業界の事務局を務められています。自主基準設定に取り組まれている現状や、消費者目線での上手な使い方について、わかりやすくお聞きすることができ、大変参考になりました(詳細は本号五ページをご覧ください)。

## 第二十五回 ゴルフ・懇親会

平成二十二年十月十五日(金)  
幹事の三上正勝様・西村定様を

始め、東正弘様にお世話いただき、好天氣に恵まれた東城陽ゴルフクラブにおいて開催されました。競技方法はダブルペリアで行い、浦野利己様が優勝されました。おめでとうございます。



## 第二十一回 応化会ハイキング

平成二十二年十二月十二日(日)  
川口士郎様に幹事をお願いし、琵琶湖東岸の「安土山・きぬがさ山」ハイキングが開催されました。参加者十五名、安土駅に集合し、安土城址く北腰越くきぬがさ山く観音正寺く桑実寺く安土文芸の郷く安土駅の十二kmの歴史あるコースを楽しむことができました。

## 第二十六回 ゴルフ・懇親会

平成二十三年三月三十日(水)  
三上正勝様・西村定様にお世話いただき、晴天の宇治カントリークラブで開催され、大杉義則様が優勝されました。おめでとうございます。今回は参加者のご好意により、東日本大震災の被災者の方へ、義援金をお送りしました。次回は十月二十六日開催の予定ですので、同窓諸氏の奮ってのご参加をお待ちしています。

## 第二十二回 応化会ハイキング

平成二十三年五月二十二日(日)  
木全豊和様に幹事をお願いし、加茂く奈良間「幻の大仏鉄道をあるく」ハイキングが開催されました。当日は天候悪く、参加者は九名、



奈良駅く加茂駅く鹿背山不動く梅谷く黒髪山く大仏跡跡のルートで、十二kmを四時間かけて興味深く探索、懇親会で打ち上げ、疲れは完全に吹っ飛びました。

## 温泉研究会幹事会

平成二十三年六月二十三日(木)  
昨年十一月に発足しました本研究会は、会長に就任された木村碩志様にお世話いただき、「かんぼの宿赤穂」に一泊し、温泉と料理を楽しみつつ交流を図りました。また、翌日はアース製菓の研究所を見学させていただきました。

今回は十二月十六日く十七日にかけて、京都・ホテル本能寺会館で開催されます。温泉で楽しいひと時をぜひ一緒にどうぞ!

## 第三回 釣り天狗クラブのご案内

今回は、平成二十三年十一月十九日(土)、目片秀明様にお世話いただき、阪南市「マリクラブうみあそびと」で開催されます。釣った魚をその場で料理し、おいしいお酒と一緒にいただく趣向です。魚釣り始めての方もお気軽にぜひ一度ご参加下さい。



## 物故者

平成22年9月1日から平成23年8月31日の間に、死亡のご連絡を頂いた方々です。  
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

|     |    |          |
|-----|----|----------|
| 森   | 大  | (昭和18年卒) |
| 田中  | 穰  | (昭和19年卒) |
| 市原  | 邦彦 | (昭和20年卒) |
| 井口  | 進  | (昭和22年卒) |
| 伊藤  | 克巳 | (昭和22年卒) |
| 京本  | 義朗 | (昭和23年卒) |
| 澤井  | 俊一 | (昭和23年卒) |
| 松尾  | 陽一 | (昭和23年卒) |
| 辻   | 晃  | (昭和23年卒) |
| 岩田  | 嘉郎 | (昭和24年卒) |
| 阪口  | 誠一 | (昭和24年卒) |
| 西村  | 敏夫 | (昭和24年卒) |
| 外池  | 順一 | (昭和25年卒) |
| 北部  | 安満 | (昭和27年卒) |
| 辻井  | 彬  | (昭和27年卒) |
| 堀井  | 敬三 | (昭和28年卒) |
| 多和田 | 寿  | (昭和29年卒) |
| 矢野  | 雄一 | (昭和30年卒) |
| 斎藤  | 隆之 | (昭和31年卒) |
| 木村  | 春徳 | (昭和34年卒) |
| 石原  | 卓  | (昭和35年卒) |
| 山下  | 修生 | (昭和37年卒) |
| 坂本  | 薫  | (昭和38年卒) |
| 藤川  | 衛  | (昭和38年卒) |
| 池田  | 卓  | (昭和41年卒) |
| 伊東  | 護  | (昭和42年卒) |
| 谷川  | 穰  | (昭和42年卒) |
| 高田  | 満信 | (昭和46年卒) |

(敬称略)

## 第二回温泉研究会総会及び

### 温泉セミナーのご案内

日時：平成二十三年

十二月十六日(金)

～十七日(土)

場所：ホテル本能寺会館

(京都市役所前)

京都市中京区御池通河原町西

TEL 〇七五—二二二—二二二二

総会：十七時～十七時三十分

セミナー：十七時三十分～一九時

(一)日本の温泉・世界の温泉

岡山理大名誉教授 石井 猛

(二)古代ローマの公衆浴場と温泉

旧兵庫県公害研究所参事 奥野 年秀

(三)知られざる家庭入浴剤の話

環境・健康研究所代表 木村 碩志

懇親会：十九時～二十一時

ホテル本能寺会館大広間

会費：宿泊者 各一、〇〇〇

懇親会のみ 各七、〇〇〇

資料費 各一、〇〇〇

\*温泉研究会会員のみならず、一般会員の方のご参加も大歓迎です！

## ゴルフ懇親会参加者からの

### 義援金の件

## 事務局だより

三月三十日に開催された第二十六回応化会ゴルフコンペ参加者の皆様が、当日のプレー後の会食を取り止め、その費用とコンペの残金を合わせて、東日本大震災被災者の方々への義援金として、応化会事務局へ届けられました。事務局から大学の校友会を通じて被災者の皆様にお送り致しました。

「義援金募集への協力をお願い」  
応化会ニュースに同封して案内資料をお送りしましたとおり、立命館大学校友会は東日本大震災義援金を募集しています。ご協力くださいますようお願い申し上げます。

## 編集後記

応化会ニュースは第二十九号を迎えます。

創刊号は「化学科同窓会ニュース」として昭和五十八(一九八三)年十一月に発行されました。平成六(一九九四)年四月、びわこくさつキャンパス(BKC)に移設、タイトルを「応化会ニュース」(第十三号)に変更、平成二十(二〇〇八)年「生命科学部」の誕生を機に、今回で最終号となりました。本号では約三十年間の懐かしい思い出を綴りました。

今年、日本は東日本大震災、福島原発事故による甚大なダメージを受けました。一方、女子サッカー「なでしこジャパン」

が国民栄誉賞を受賞、小惑星探査機「はやぶさ」が七年間約六十億kmの旅をし、帰還しました。

応化会は新たに生命科学部の卒業生を迎え、新しく生まれ変わります。十月十六日(日)BKCコアステーションにて新同窓会設立総会を開催します。明るく親しみやすい皆様の交流の場として活用されると共に、これからの新しい時代を作ってゆくことになるよう念じて居ります。

(金川)



## 2010年度(平成22年度) 応化会事業報告

### I. 諸事業

|                    |             |
|--------------------|-------------|
| 1) 2010年3月卒業生名簿作成  | 2010年5月～    |
| 2) 第10回総会          | 2010年6月27日  |
| 3) 在校生ソフトボール大会     | 2010年11月21日 |
| 4) 応化会ニュース(第28号)発行 | 2010年11月    |
| 5) 全会員への通信、会費請求    | 2010年11月    |
| 6) 卒業・修了記念パーティー    | 2011年3月21日  |
| 7) ゴルフ懇親会の開催       |             |
| ・第25回              | 2010年10月15日 |
| ・第26回              | 2011年3月30日  |
| 8) 応化会ハイキング        |             |
| ・第20回              | 2010年4月17日  |
| ・第21回              | 2010年12月12日 |
| 9) 釣り天狗クラブ         |             |
| ・第2回               | 2010年9月12日  |
| 10) 温泉研究会          |             |
| ・第1回               | 2010年11月24日 |
| 11) 健康セミナー         |             |
| ・第5回               | 2011年2月20日  |

### II. 諸会議

|                 |            |
|-----------------|------------|
| 1) 幹事会          |            |
| ・第1回            | 2010年4月18日 |
| ・第2回            | 2011年2月20日 |
| 2) 応化会ニュース編集委員会 |            |
| ・第1回            | 2010年5月29日 |
| ・第2回            | 2010年9月5日  |

### III. 支部活動(関東支部、東海支部、中国・四国支部)

|         |            |
|---------|------------|
| 関東支部幹事会 | 2010年7月15日 |
|---------|------------|

## 2010年度(平成22年度) 応化会決算

| 一般会計 (単位:円) |           |           |
|-------------|-----------|-----------|
|             | 予算額       | 執行額       |
| 〈収入の部〉      |           |           |
| 前年度繰越金      | 3,973,431 | 3,973,431 |
| 会費(一般)      | 1,500,000 | 1,630,000 |
| 会費(学生)      | 1,670,000 | 1,780,000 |
| 寄付金         | 250,000   | 436,500   |
| 雑収入         | 5,000     | 408       |
| 合計          | 7,398,431 | 7,820,339 |
| 〈支出の部〉      |           |           |
| 総会開催費       | 1,000,000 | 953,509   |
| 事業等補助金      | 200,000   | 122,615   |
| 地域別活動推進費    | 300,000   | 0         |
| 会議費         | 200,000   | 103,032   |
| 印刷費         | 400,000   | 514,172   |
| 郵送費         | 800,000   | 568,792   |
| 人件費         | 500,000   | 444,600   |
| 事務局費        | 50,000    | 46,609    |
| 雑費          | 100,000   | 6,500     |
| 拠出金(特別会計へ)  | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 拠出金(連絡協議会へ) | 100,000   | 80,000    |
| 在学生活動援助費    | 200,000   | 200,000   |
| 振込手数料       | 100,000   | 88,805    |
| 予備費         | 2,448,431 | 0         |
| 合計          | 7,398,431 | 4,128,634 |
| 次年度繰越金      |           | 3,691,705 |
| 特別会計        |           |           |
| 〈収入の部〉      |           |           |
| 前年度繰越金      | 3,926,278 | 3,926,278 |
| 拠出金         | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 雑収入         | 1,000     | 0         |
| 合計          | 4,927,278 | 4,926,278 |
| 〈支出の部〉      |           |           |
| 人件費         | 500,000   | 290,500   |
| 事務局費        | 200,000   | 0         |
| 予備費         | 4,227,278 | 0         |
| 合計          | 4,927,278 | 290,500   |
| 次年度繰越金      |           | 4,635,778 |

## 2011年度(平成23年度) 応化会事業計画

### I. 諸事業

|                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1) 2011年3月卒業生名簿作成  | 2011年5月～       |
| 2) 応化会ニュース(第29号)発行 | 2011年11月       |
| 3) 全会員への通信         | 2011年11月       |
| 4) ゴルフ懇親会          |                |
| ・第27回              | 2011年10月26日    |
| ・第28回              | 未定             |
| 5) 応化会ハイキングの開催     |                |
| ・第22回              | 2011年5月22日     |
| ・第23回              | 2011年11月27日    |
| 6) 釣り天狗クラブ         |                |
| ・第3回               | 2011年11月19日    |
| 7) 温泉研究会           |                |
| ・幹事会               | 2011年6月23日     |
| ・第2回 総会&セミナー       | 2011年12月16-17日 |
| 8) 健康セミナー          |                |
| ・第6回               | 未定             |

### II. 諸会議

|                 |            |
|-----------------|------------|
| 1) 幹事会          |            |
| ・第1回            | 2011年7月24日 |
| ・第2回            | 未定         |
| 2) 企画運営委員会      |            |
| ・第1回            | 未定         |
| ・第2回            | 未定         |
| 3) 応化会ニュース編集委員会 |            |
| ・第1回            | 2011年6月25日 |
| ・第2回            | 2011年9月11日 |
| 4) 地域別活動推進委員会   | 未定         |
| 5) 名簿管理委員会      | 未定         |

### III. 支部活動(関東支部、東海支部、中国・四国支部) 未定

## 2011年度(平成23年度) 応化会予算

| 一般会計 (単位:円) |           |
|-------------|-----------|
|             | 予算額       |
| 〈収入の部〉      |           |
| 前年度繰越金      | 3,691,705 |
| 会費(一般)      | 50,000    |
| 会費(学生)      | 0         |
| 寄付金         | 10,000    |
| 雑収入         | 5,000     |
| 合計          | 3,756,705 |
| 〈支出の部〉      |           |
| 総会開催費       | 0         |
| 事業等補助金      | 200,000   |
| 地域別活動推進費    | 100,000   |
| 会議費         | 150,000   |
| 印刷費         | 400,000   |
| 郵送費         | 800,000   |
| 人件費         | 250,000   |
| 事務局費        | 25,000    |
| 雑費          | 100,000   |
| 拠出金(特別会計へ)  | 0         |
| 拠出金(連絡協議会へ) | 0         |
| 在学生活動援助費    | 0         |
| 振込手数料       | 100,000   |
| 予備費         | 1,631,705 |
| 合計          | 3,756,705 |
| 特別会計        |           |
| 〈収入の部〉      |           |
| 前年度繰越金      | 4,635,778 |
| 拠出金         | 0         |
| 雑収入         | 1,000     |
| 合計          | 4,636,778 |
| 〈支出の部〉      |           |
| 人件費         | 250,000   |
| 事務局費        | 100,000   |
| 予備費         | 4,286,778 |
| 合計          | 4,636,778 |